

指導と評価の年間計画 現代の国語

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
現代の国語	1 年	2	現代の国語 (数研出版)	プレミアムカラー国語便覧 (数研出版) 意味から学ぶ頻出漢字3000 (第一学習社)

科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになることで、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって国語を尊重し、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を育てる。		
学習活動	①授業は予習を前提にして進みます。論理的な文章を読解するために必要な意味調べや音読などを行います。教養力・思考力・表現力 ②質疑応答、対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークやグループ学習では相手の考えに耳を傾け、比較や分析を通して読みを深めましょう。また、意見文発表やスピーチ、図書館等を利用した調べ学習とプレゼンテーション、感想文、小論文に取り組むこともあります。思考力・表現力・協働力 ③復習では、授業で学習した重要事項を確認します。語彙などの基礎力の定着度を確認するための小テストを行うことがあります。教養力・思考力・表現力・省察力・志力 ④国語力の向上だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけましょう。定期的にブックレポートの提出を求めます。省察力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	主体的に学習に取り組む態度 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表内容の観察 ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○各種レポートの点検 ○定期考査 ○課題テスト ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■ 読み深める（読む） 書けない日々 コミュニケーション能力とは何か ■ 考えを表す（書く） 感情暴走社会の由来 デジタルメディア時代の複製 ■ 表現（話す聞く） 話し言葉の技術 ■ 実用の文章（話す聞く） 資料を分析して考えをまとめる 課題を発見し解決策を発表する ■ 読み深める（読む） 「わらしべ長者」の経済学 ■ 考えを表す（書く） 命は誰のものなのか ■ 表現（書く） 書き言葉の技術	□ 筆者の考えや本文の内容を的確に把握する。 □ 具体例や言い換えを用いて筆者の述べる「知性」について理解する。 □ 伝えたい内容を、根拠を示して説明する。 □ 読み手に理解してもらえるように、文章の構成や展開を工夫する。 □ 文章や話の効果的な組み立て方を理解する。 □ 目的や場に応じて、適切な話題を決定する。 □ 様々な視点で情報を集めて、伝え合う内容を検討する。 □ 「わらしべ長者」に対する筆者の評価を的確に読み取り、自分の考えを根拠を持って明示する。 □ 筆者の問題提起に対して自分の考えを具体例を交えてまとめる。 □ 文章の種類に応じて適切な形式で書く。	単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
後 期	■ 読み深める（読む） 動物園というメディア ■ 考えを表す（書く） 動的平衡の回復 無痛化する社会のゆくえ ■ 表現（話す聞く） 言語技術の実践 ■ 実用の文章（話す聞く） コミュニケーションの手段を考える 文章の構成を工夫して提案する ■ 読み深める（読む） 時間と自由の関係について ■ 考えを表す（書く） 絵を前に思いをめぐらす	□ 具体的事例をふまえながら、筆者のものの見方、考え方を理解する。 □ 筆者の考えを理解したうえで、実社会の例を調べて分析し、まとめる。 □ 情報の妥当性や信頼性を的確に判断して利用する。 □ 目的や場に応じて、適切な話題を決定する。 □ 様々な視点で情報を集めて、伝え合う内容を検討する。 □ 「時間」について論じられた異なる文章を読んで、時間に対する自分の考えをまとめる。 □ 美術鑑賞の特徴を踏まえて、筆者の抱いている危機について説明する。	単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 言語文化

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
言語文化	1 年	3	言語文化（数研出版）	プレミアムカラー国語便覧（数研出版） 九訂版 読解を大切にする体系古典文法（数研出版） 必携 新明説漢文（尚文出版）

科目の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、我が国の言語文化に対する理解を深め、論理的な思考力・深い共感力・豊かな想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高めながら自分の思いや考えを広げたり深めたりし、言葉が持つ価値への認識を深めて、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習活動	①授業は予習を前提にして進みます。文学作品では音読・意味調べ、古文では音読・品詞分解・現代語訳、漢文では音読・書き下し文・現代語訳を行います。【教養力・思考力・表現力】 ②質疑応答、対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークやグループ学習では相手の考えに耳を傾け、比較や分析を通して読みを深めましょう。また、図書館等を利用した調べ学習とレポートの作成および発表、感想文に取り組むこともあります。【思考力・表現力・協働能力】 ③復習では、授業で学習した重要事項を確認します。語彙などの基礎力の定着度を確認するための小テストを行います。【教養力・思考力・表現力・省察力・志力】 ④国語力の向上だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを充分活用し、読書習慣を身につけましょう。【省察力・志力】		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働能力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表内容の観察 ○課題の点検	○授業・発表内容の観察 ○各種レポートの点検 ○定期考査 ○課題テスト ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■言語文化と古文 説話 宇治拾遺物語 児のそら寝 絵仏師良秀 随筆 徒然草 つれづれなるままに 丹波に出雲といふ所あり 奥山に猫またといふものありて 歌物語 伊勢物語 芥川 東下り ■言語文化と漢文 入門 一、二 故事 史伝 漢詩 ■言語文化と近現代 近代小説（一） 羅生門	□歴史的仮名遣いについて理解し、古典世界のものの見方、感じ方、考え方を捉える。 □助動詞について理解し、登場人物の行動の動機について根拠立てて説明する。 □文章の構成や展開を捉え、その効果を説明する。 □和歌の修辞を理解し、和歌に込められた心情を地の文と関連させて捉え、説明する。 □現代の日本語と漢文の関連について考える。 □故事成語の成り立ちを踏まえた意味を説明する。 □作品の歴史的・文化的背景などを理解し古典に親しむ。 □漢文特有の表現や作品の成立した背景を踏まえて内容を理解し、主題を説明する。 □下人の人物像と心情変化を文脈の中で理解し、説明する。 □『羅生門』と『今昔物語集』を比較し、内容の解釈を深める。	単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれ行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
後 期	■言語文化と古文 物語 竹取物語 和歌 万葉集、古今集、新古今集 随筆 枕草子 春はあけぼの ありがたきもの 雪のいと高う降りたるを 日記文学 土佐日記 軍記物語 平家物語 祇園精舎 木曾の最期 ■言語文化と漢文 思想 論語、孟子 文章 雑説 ■言語文化と近現代 近代小説（二） 城の崎にて	□平安時代の儀式について理解し、登場人物の人物造形を説明する。 □和歌の修辞を理解し、和歌に込められた心情について考え、説明する。 □本文と同じテーマで現代語の随筆を書く。 □『枕草子』と『白氏文集』を比較し、主題の違いを考える。 □古典常識について現代の名残とともに理解し、本文の読解に役立てる。 □漢文日記と仮名日記文学の性格の違いについて理解する。 □和漢混交文の表現の特徴と効果を理解する。 □義仲と巴、義仲と兼平の関係性について本文を踏まえて理解し、両者の違いを対比的にわかりやすく説明する。 □本文の解釈上の異説を図書館や情報端末を活用して調べる。 □複数の解釈を比較検討した上で自分なりの解釈を構築する。 □作品成立の動機について、唐代中国の歴史的背景を踏まえた上で自分なりの考えをまとめる。 □作品に描かれる死生観を文脈の中で理解し、説明する。 □「生と死」に対する思いを自身の体験を踏まえて文章で表現する。	単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれ行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理総合

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
地理総合	1 年	2	高等学校 新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE2025(帝国書院)

科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。		
学習活動	① 授業は単元ごとに問いを設け、世界の自然と人間生活への理解を深めていきます。 教養力・思考力・志力 ② 白地図や図表などを用いた作業学習を行い、諸事象に対する空間的な見方を養います。 思考力・表現力・協働力 ③ テストの振り返りや問題集を用いた演習を通じて知識や思考力を身につけます。 教養力・思考力・省察力 ④ iPad やコンピュータなど情報機器を活用した、情報収集や GIS 活用能力を養います。 教養力・表現力・協働力・省察力 ※ 日頃より、身近な地域の姿や国内外の自然や社会についてのテーマ、災害や防災に関心を持っておくことが、地理学習の深化につながります。		
未来開拓力	・ 教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・ 思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・ 表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・ 協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・ 志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・ 省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとすることができたか。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚することができたか。	○世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを解決する取り組みが行えたか。 ○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができたか。	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できたか。 ○地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすること
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み

年間指導計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	1. 地図でとらえる現代世界 ・地図上の位置と時差 ・地図の役割と課題 ・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界 2. 国際理解と国際協力 ・生活文化の多様性 ・世界の地形と人々の生活 ・世界の気候と人々の生活 ・オセアニア ・東南アジア ・世界の言語・宗教と人々の生活 ・中央アジア・西アジア・北アフリカ ・インド 歴史的背景と人々の生活 ・ラテンアメリカ ・サハラ以南アフリカ ・ロシア ・世界の産業と人々の生活 ・アメリカ合衆国 ・東アジア ・ヨーロッパ	リモートセンシングや GIS による地図が地球の現状認識に役立つことに きづき、地理情報が生活と結びついていることを理解する。 世界地図は球面上の情報をすべて正しく表現できないこと、地図の種 類とそれぞれの特色を理解する。 現代世界に関する統計を地理情報に加工できる、地理的技能を習得 する。 様々な地形の分布や形成要因から基礎的知識や概念を習得し、地 形と生活との関係を考察する。地形図の読図に関する地理的技能を習 得する。 世界規模で気温・降水量・大気大循環・水の循環・土壌・植生、気候 帯を取り上げ、その分布や形成要因、気候と人々の生活との関連につい て考察する。 民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活と の関わりについて理解する。 地誌的に考察する様々な方法について理解し、各地域を例に地誌的 考察を実践する。 世界の産業について、資源の分布や問題点について世界的視野に留 意して概観させ、人々の生活との関わりについて理解する。	単元ごとに、「学習活 動」の①、②、③をそ れぞれに行い、単元を 通じて3つの観点につ いて評価を行う。
後 期	2. 国際理解と国際協力 ・複雑に絡み合う地球的課題 ・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・人口問題 ・食料問題 ・都市・居住問題 3. 持続可能な地域づくりと私たち ・日本の自然環境 ・地震・津波と防災 ・火山災害と防災 ・気象災害と防災 ・自然災害への備え ・自然災害による被害を減らそう ・生活圏の調査と地域の展望	地球環境問題について、過去に発生した災害や天災からその構造や 対処法について学び、これから起こりえる災害に対する備えについて考察 し、実践する。 世界の資源・エネルギーについての基礎的・基本的知識を習得する。 世界の人口分布、人口増加・人口構成について考察し、基本的知識 を習得する。人口増加地域と減少地域の人口問題を比較しながら、日 本の人口問題についても考察する。 都市・居住問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国、 先進国、日本の人口問題の事例を考察する。 日本の自然環境と災害について、基礎的・基本的知識を習得する。 また、有事の際への備えについて、対策を考察する。 日本における、様々な都市問題や地域格差について学び、日本の抱 える様々な問題について考察する。	単元ごとに、「学習活 動」の①、②、③をそ れぞれに行い、単元を 通じて3つの観点につ いて評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 歴史総合

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
歴史総合	1 年	2	詳述歴史総合（実教出版）	詳述歴史総合徹底整理演習ノート（実教出版）

科目の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
学習活動	①授業は単元ごとに主題、問いを設定し、探究していく活動を中心におこないます。思考力・表現力・協働力・省察力 主題学習をおこなう際、「歴史総合」で働かせる「見方、考え方」 1 時系列に関わる視点……………時期・年代など 2 諸事象の推移に関わる視点……………展開・変化・継続など 3 諸事象の比較に関わる視点……………類似・差異など 4 事象相互のつながりに関わる視点……………背景・原因・結果・影響・関係性・相互作用など 5 現在とのつながり 上記5点などに着目して、比較したり関連させたりして社会事象を捉えることをめざす。 ②サブノートの空欄補充を教科書・資料集を活用しておこない予習、復習をします。教養力 ③復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり、問題集を解くなどして知識の定着を図りましょう。教養力 ※本やテレビ、映画など歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。志力 ※日頃から、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	思考・判断・表現 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	A 歴史の扉 (1) 歴史と私たち	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	(2) 歴史の特質と資料	・日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、図像などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。	
	B 近代化と私たち (1) 近代化への問い (2) 結び付く世界と日本の開国 (3) 国民国家と明治維新 (4) 近代化と現代的な諸課題	・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	
後 期	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い (2) 第一次世界大戦と大衆社会	・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	(3) 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。	

(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
D グローバル化と私たち	・冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。 ・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 ・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。 ・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
(1) グローバル化への問い	
(2) 冷戦と世界経済	
(3) 世界秩序の変容と日本	
(4) 現代的な諸課題の形成と展望	

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 I

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
数学 I	1 年	3	高等学校 数学 I (数研出版)	新課程クリアー数学 I A (数研出版) 新課程チャート式数学 I +A (数研出版)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動とをします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類題を探して問題を解くことで、理解を確実にします。思考力・表現力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	思考・判断・表現 数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表・式・グラフを相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

※数学 I の履修終了後、数学 II を履修します。

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第1章 数と式 1 式の計算 2 実数 3 1次不等式	☐ 整式を適切な形に整理することによって因数分解や計算ができる。 ☐ 実数を数直線上の点の座標としてとらえることができる。また、実数の大小関係と数直線に関連付けて考えることができる。 ☐ 不等式における解の意味を理解し、1次不等式の応用問題を解くことができる。 ☐ 絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	第2章 集合と命題	☐ ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して処理することができる。 ☐ 条件と集合の関係を理解し、必要条件、十分条件を集合の関係でとらえることができる。 ☐ 対偶、背理法を理解し、命題を証明するのにこれらを適切に用いることができる。	
	第3章 2次関数 1 2次関数とグラフ 2 2次関数の値の変化 3 2次方程式と2次不等式	☐ 平方完成を利用して、2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。 ☐ 2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ☐ 2次方程式の解の考察において、判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の関係を理解し、利用することができる。 ☐ 2次不等式の解と2次関数の値の符号を相互に関連させて考察できる。	
後 期	第4章 図形と計量 1 三角比 2 三角形への応用	☐ 三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。 ☐ 座標を用いた三角比の定義を理解し、三角比の値から θ を求めることができる。 ☐ 余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ☐ 測量や空間図形への応用では、適当な三角形に着目して考察できる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	第5章 データの分析	☐ 箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 ☐ 分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて求めることができる。 ☐ 相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解し、共分散と標準偏差から求めることができる。	
	課題学習	☐ 今までに学んだ内容に関する課題について、主体的に学習し、数学のよさを認識する。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅱ

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
数学Ⅱ	1 年	1	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	新課程クリアー数学Ⅱ+B+C (数研出版) 新課程チャート式数学Ⅱ+B+C (数研出版)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動とをします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類題を探して問題を解くことで、理解を確実にします。思考力・表現力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	思考・判断・表現 等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

※数学Ⅰの履修終了後、数学Ⅱを履修します。

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
後 期	第 1 章 式と証明 1 式と計算 2 等式・不等式の証明	☐ 二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ☐ 二項定理を 3 項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 ☐ 除法で成り立つ等式を理解し、利用することができる。 ☐ 分数式の約分、四則計算ができる。 ☐ 恒等式と方程式の違いを理解している。 ☐ 恒等式となるように、係数を決定することができる。 ☐ $A = B$ と $A - B = 0$ が同値であることを利用して、等式を証明することができる。 ☐ 同値な不等式を証明することで、もとの不等式を証明することができる。 ☐ 平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ☐ 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて 3 つの観点について評価をおこなう。
	第 2 章 複素数と方程式 1 複素数と 2 次方程式の解 2 高次方程式	☐ 複素数と、その相等の定義を理解する。 ☐ 複素数の四則計算ができる。 ☐ 負の数の平方根を含む式の計算を、虚数単位 i を用いて処理することができる。 ☐ 2 次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2 次方程式の解を考察しようとする。 ☐ 解と係数の関係を使って、対称式の値や 2 次方程式の係数を求めることができる。 ☐ 2 数を解とする 2 次方程式を作ることができる。 ☐ 剰余の定理を利用して、整式を 1 次式や 2 次式で割ったときの余りを求めることができる。 ☐ 因数定理を理解し、3 次式や 4 次式を因数分解できる。 ☐ 1 の 3 乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ☐ 因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。	
	第 3 章 図形と方程式 1 点と直線 2 円 3 軌跡と領域	☐ 座標平面上において、2 点間の距離が求められる。 ☐ 2 直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 ☐ 点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用できる。 ☐ 与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ☐ 円と直線の交点の個数を、判別式や点と直線の距離を活用して判断できる。 ☐ 点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。	

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 A

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
数学 A	1 年	2	高等学校 数学 A (数研出版)	新課程クリアー数学 I + A (数研出版) 新課程チャート式数学 I + A (数研出版)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間に関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類題を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	思考・判断・表現 図形の性質を見だし、論理的に考察する力、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第 1 章 場合の数と確率 1 場合の数 2 確率	☐ 和の法則、積の法則の利用場面を理解し事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 ☐ 簡単な場合の数を、順列、円順列、重複順列に帰着させて求めることができる。 ☐ 簡単な場合の数を、組合せに帰着させて求めることができる。 ☐ 同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。 ☐ 確率の性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。 ☐ 独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 ☐ 反復試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 ☐ 条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率を求めることができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	第 2 章 図形の性質 1 平面図形 2 空間図形	☐ 三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解する。 ☐ チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比や図形の面積比を求める問題に活用できる。 ☐ 三角形の存在条件や、辺と角の大小関係について理解する。 ☐ 四角形が円に内接するための条件を利用して、図形の性質を証明できる。 ☐ 円の接線と弦の作る角についての性質を利用して、角の大きさを求めることができる。 ☐ 方べきの定理を理解する。 ☐ 空間における2直線の位置関係やなす角を理解する。	
後 期	第 3 章 数学と人間の活動	☐ 倍数の判定法について理解する。 ☐ 自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解が利用できることを理解する。 ☐ 互いに素な整数の性質を利用して、簡単な命題を証明することができる。 ☐ 整数をある正の整数で割った余りで分類して、簡単な整数の性質を証明することができる。 ☐ 互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 ☐ 1次不定方程式の解を1つ求め、それによりすべての整数解を求めることができる。 ☐ n進法の数を10進法で、10進法の数をn進法で表すことができる。 ☐ 特定の地点を座標平面または座標空間上の点と捉えて位置を座標で表現できる。 ☐ ゲームやパズルの仕組みを論理的に考察することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理基礎

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
物理基礎	1 年	2	高等学校 新物理基礎 (第一学習社)	新課程 レットライノート 物理基礎 (東京書籍)

科目の目標	物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習活動	①【脳をアクティブに】講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力 ②【わかったを実感】対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働力 ③【できたを実感】問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力 ④【わかったを実感】観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して学習活動準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。思考力・省察力・協働力 ⑤【家庭学習への繋がり】授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度を確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力 ⑥【その他】授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。教養力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身につけている	思考・判断・表現 実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	主体的に学習に取り組む態度 様々な現象について関心を持ち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
評価方法	○定期考査	○定期考査 ○授業状況の観察 ○実験レポート	○振り返りシート ○授業状況の観察 ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第１節 物体の運動 第２節 力と運動の法則 第３節 仕事と力学的エネルギー 第Ⅱ章 熱 第１節 熱とエネルギー 第Ⅲ章 波動 第１節 波の性質 第２節 音波	・物体の運動の表し方を理解する。 ・物体の運動状態や物体のもつエネルギーの表し方を、実験や考察を通して理解する。 ・エネルギーの最も身近で重要な形態である熱の本質を理解する。 ・熱の現象とエネルギーの関係、熱の利用について理解する。 ・音や電波、光などの波が身の回りにあることを知り、波の一般的な性質を理解する。 ・音について詳しく理解する。	授業態度， 発問評価， 定期考査， 実 験 レ ポ ー ト， 振り返りシート
後 期	第Ⅳ章 電気 第１節 電荷と電流 第２節 電流と磁場 第３節 エネルギーとその利用 終章 物理学が拓く世界	・電気や磁気の性質を理解する。 ・電気や磁気の利用について、安全性と効率性を理解する。 ・自然界のエネルギーをどのように利用できるかを理解する。 ・物理学の発展がこれからの世界をどう切り拓いていくかを考える	授業態度， 発問評価， 定期考査， 実 験 レ ポ ー ト， 振り返りシート

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物基礎

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
生物基礎	1 年	2	生物基礎 (第一学習社)	生物基礎の必修整理ノート(文英堂) ニューステージ生物図表(浜島書店) プログレス生物基礎(第一学習社)

科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
学習活動	①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。<u>教養力・表現力</u> ②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。<u>思考力・表現力・協働力</u> ③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。<u>思考力・省察力</u> ④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。<u>思考力・省察力・協働力</u> ⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。<u>教養力・省察力・志力</u> ⑥【その他】 授業で学習する様々な生物現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて生物・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において生物・科学に触れてみましょう。<u>教養力・志力</u>		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	様々な生物現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	様々な生物現象について関心をもち、それを生物学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■ 生物と遺伝子 第 1 章 生物の特徴 第 2 章 遺伝子とその働き	☐ 多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があり、それが共通の起源をもつことに由来することを理解する。 ☐ 酵素、光合成、呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを理解する。 ☐ DNAについて、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。 ☐ 次に転写と翻訳の概要から、タンパク質の合成について理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこない、単元を通じて 3 つの観点について評価をおこなう。
	■ 生物の体内環境の維持 第 3 章 生物の体内環境	☐ 動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）であり、体内環境がいかにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみがはたらき、どのように調節が行われているのか、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系、免疫について理解する。 ☐ 私たち自身のからだにかかわる内容についてできるだけ身近な話題と関連づけながら理解する。	
後 期	■ 生物の多様性と生態系 第 4 章 植生の多様性と分布 第 5 章 生態系とその保全	☐ 植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解する。 ☐ 地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを、世界と日本のバイオームを比較しながら理解する。 ☐ 生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。 ☐ 生態系はそのバランスが保たれていること、人類は生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを関連づけながら理解し自然環境を保全することが大切であることを理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこない、単元を通じて 3 つの観点について評価をおこなう。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 体育

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
体 育	1 年	3	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 (大修館)

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。		
学習活動	①運動の合理的、計画的な実践や体育理論の学習を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにします。【教養力・省察力・志力】 ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養います。 【教養力・思考力・表現力・協働力】 ③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養います。 【思考力・協働力・省察力】		
未来開拓力	・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力：自らの行動を振り返り改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価方法	○パフォーマンステスト ○新体力テスト ○授業状況の観察 ○知識理解度テスト ○体育理論テスト	○グループ活動の観察 ○グループノート ○振り返りシート	○授業状況の観察

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	オリエンテーション 集団行動 体づくり運動 陸上競技 バレーボール（兼球技大会練習）	（通年で） ☐ 集合時間を守ることができる。 ☐ 規定の服装で活動することができる。 ☐ 用具の準備ができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこない、3つの観点について評価をおこなう。
後 期	選択制授業Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ （3種目を行う） ・陸上競技（全員） ・ゴール型球技（どちらか1つ） サッカー バスケットボール ・ネット型球技（どちらか1つ） バレーボール テニス 選択制授業Ⅳ（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・バスケットボール ・バレーボール ・テニス ・陸上競技 （体育館） ・バドミントン （武道場） ・卓球	☐ グループノートを用いて、授業計画を綿密に立てることができる。 ☐ 足のリズムを合わせて、大きな声を出し、列を揃えて、集団走ができる。 ☐ 計画に沿って、グループで協力して活動することができる。 ☐ 意欲的に練習に取り組むことができる。 ☐ グループ全員の技能上達を目指して、互いにアドバイスをし合うことができる。 ☐ 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	
前 期 末 と 後 期 末	体育理論 ・体育理論オリエンテーション ・スポーツの歴史と変容 ・スポーツの技術、戦術、ルールの変化 ・オリンピックムーブメントとドーピング ・スポーツの経済的効果とスポーツ産業	☐ 集合時間を守ることができる。 ☐ グループ内でしっかり発言できる。 ☐ グループ内で他の意見を聞き、自分の考えを深めることができる。 ☐ グループ内の意見をまとめて、全体へ向けて発表できる。 ☐ 正しい知識を身につけることができる。	「学習活動」の①をおこない、3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 保健

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
保 健	1 年	1	現代高等保健体育 (大修館)	図説現代高等保健 (大修館)

科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。		
学習活動	①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、知識や技能を身につけるようにします。 教養力・省察力・志力 ②健康について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養います。 教養力・思考力・表現力・協働力 ③課題学習では、仲間と協力しながら、我が国や世界が抱える問題について、自ら課題を見つけだし、自ら考え、試行錯誤しながら、主体的に取り組むことができる能力を養います。 教養力・思考力・表現力・協働力 ④体験的な学習では、仲間と協力しながら、自分と他者の健康について考え、生涯にわたり健康で安全な生活を送ることができるよう、必要な知識と技能を身に付けます。 教養力・思考力・協働力・志力		
未来開拓力	・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力：自らの行動を振り返り改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。	思考・判断・表現 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	主体的に学習に取り組む態度 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○授業状況の観察 ○技能(心肺蘇生法)観察	○定期考査 ○確認テスト ○授業状況の観察 ○グループ活動の観察	○定期考査 ○確認テスト ○授業状況の観察 ○課題、ノートの取組

年間指導計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前期	1 単元 現代社会と健康 01 健康の考え方と成り立ち 02 私たちの健康のすがた 03 生活習慣病の予防と回復 04 がんの原因と予防 05 がんの治療と回復 06 運動と健康 07 食事と健康 08 休養・睡眠と健康 09 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康	・オリエンテーション ☐ 国民の健康課題や健康の考え方は国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解する。 ☐ 健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解する。 ☐ 健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりが関わっていることを理解する。 ☐ 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解する。 ☐ 喫煙と飲酒は生活習慣病などの要因になることや薬物乱用は心身の健康や社会に 深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解する。	講義型授業や、個人または班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。
後期	12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意志決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり 2 単元 安全な社会生活 01 事故の現状と発生要因 02 安全な社会の形成 03 交通における安全 04 応急手当の意義とその基本 05 日常的な応急手当 06 心肺蘇生法	☐ 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践 するとともに、心身の不調に気付くことが重要であることや、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解する。 ☐ 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いが見られることや、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行うことが必要であることを理解する。 ☐ 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解する。 ☐ 交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わることを理解する。 ☐ 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できることや、応急手当には正しい手順や方法があることを理解する。 ☐ 応急手当は傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解する。 ☐ 心肺蘇生法の原理や方法を理解し、実践できる。(実習)	講義型授業や、個人または班の人と協力して準備・レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 音楽 I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽 I	1 年	2	MOUSA 1 (教育芸術社)	なし

科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		
学習活動	毎回の授業で、表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の分野から、学習活動を行います。 【歌唱】【器楽】では、1 人での演奏や少人数でのアンサンブル、全員での合唱・合奏というように、様々な形態の表現に取り組みます。仲間と聴き合い、演奏のアイデアを積極的に試みましょう。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力 【創作】では、一人一曲、作曲をします。音を使って 0 から 1 を創り出す面白さを感じましょう。人によって完成する曲は様々です。人との違いを発見する楽しさも感じられます。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力 【鑑賞】では、聴いて楽しむことに留まらず、得た知識から音楽を分析・理解することで、そのよさや美しさを自ら味わい、新たな魅力に気づいていきましょう。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。	思考・判断・表現 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	主体的に学習に取り組む態度 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	■ 歌唱 発声の基礎 校歌 独唱曲 ■ 器楽 アルトリコーダーの奏法 リコーダーアンサンブル ギターアンサンブル ■ 創作 音楽理論 旋律の変奏 ボディーパーカッション ■ 鑑賞 オークストラ作品 協奏曲	☐ 歌唱表現を深めていくために必要な、基礎的な技術を身に付ける。 ☐ 歌詞の意味を正しく理解し、旋律と歌詞の両面から捉えた表現を考え、それらをふまえて歌うことができる。 ☐ 呼吸や運指を理解し、音色やアーティキュレーション等の変化をつけて表現する。 ☐ アンサンブルにおける調和を工夫する ☐ ギターの基本的な奏法を学習し、奏法の工夫による演奏効果を表現に活用する。 ☐ 基礎的な記譜方法を理解する。 ☐ 旋律の変奏について学ぶ。 ☐ 基礎的なリズムの読譜力を身につける。 ☐ 作曲者の意図を汲み取りながら、音楽の特徴を感じとり、そのよさをあじわう。	歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。 作品の創作にも取り組む。年間を通じて、3つの観点について評価をおこなう。
後 期	■ 歌唱 日本歌曲独唱 混声3部合唱 ■ 器楽 ギター独奏（コード） 篠笛 ■ 創作 作曲 ■ 鑑賞 日本の伝統音楽 舞台音楽	☐ 歌い合わせる力を伸ばし、一体感のある音色で、各パートと全体の調和を図る。 ☐ 言葉のもつ語感を音楽と関わらせ、音楽を分析しながら表現の工夫を考える。 ☐ コードの仕組みについて理解し、その働きを感じ取りながら弾き歌いで表現する。 ☐ 篠笛特有の奏法に触れ、簡単な曲を演奏体験する。 ☐ 旋律の作り方について理解し、自己のイメージにこだわりながら、簡単な曲作りを行う。 ☐ 作曲者・出演者・演出家などの意図、作品の特徴などについての考察を通し、舞台芸術や伝統文化に対する理解を深める。 ☐ それぞれの文化の特徴を把握し、比較しながら、そのよさを味わう。	歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。 作品の創作にも取り組む。年間を通じて、3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術 I

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
美術 I	1 年	2	高校生の美術 1 (日本文教出版)	なし

科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
学習活動	・鉛筆や絵の具など基本的な画材の扱い方や知識を学びつつ、主に絵画やデザイン、立体造形などの作品を制作します。 教養力・思考力・表現力・省察力 ・作品制作や 20 世紀アーティストの作品鑑賞などを通して思考力を高めます。 教養力・思考力・表現力・志力 ・古今東西の美術作品を鑑賞し、自分自身にとっての「美しさとは何か」を考えます。 教養力・思考力・協働力・志力 ・作品制作を通じて協働することや、お互いの良さを認め合うことを学びます。書籍や各メディア、美術館などいろいろな場面において美術作品に親しみ、触れることで、「自分と美術」や「社会と美術」のつながりについて考えましょう。		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	思考・判断・表現 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に学習に取り組む態度 美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■美術とは何か ■絵画 ・デッサン（卓上デッサン） ・絵の具について ・鑑賞（さまざまな風景画） ・風景画（油彩） ・相互鑑賞	☐ 小、中の図工・美術の学習を振り返り、高校の美術 I へのイメージを持ち美術の学びの広がりと意味について考えることができる。 ☐ 鉛筆のグラデーションによる濃淡の幅を広げる。 ☐ 立方体、円筒、球体などの基本構造を理解した描き方を習得する。 ☐ さまざまな絵の具とその性質について理解し、油絵の具の基本的な扱い方を習得する。 ☐ 古今東西のさまざまな風景画を鑑賞し、自分なりの表現について考えを深める。 ☐ よく見て、感じて描く。戸外での風景から自分なりの視点で美しさを感じ取る。 ☐ さまざまな遠近法を学ぶ。 ☐ 他者の作品を鑑賞することで、多様な表現方法があることを知り、美術に対する理解を深める。	様々な創作活動をおこない、単元を通じて 3 つの観点について評価をおこなう。
後 期	■絵画 ・デジタル絵画（iPad で描画アプリを使ってイラストを作成する。） ■デザイン ・鑑賞 ・樹脂によるマグネット制作 ・原型制作（塑像） ・シリコンでの型取り ・相互鑑賞 ■これからの私と美術	☐ デジタルツールを用いたイラスト作成の基本を学ぶ。 ☐ データの保存方法や著作権について学ぶ。 ☐ プロダクトデザインの作例を鑑賞し、人間が作った道具と美について考えたことをまとめる。 ☐ 個性豊かに発想し、独自のアイデアを構築し、創造的に表現することができる。 ☐ 型取りの原理を理解して計画的に制作に取り組むことができる。 ☐ 他者の作品を鑑賞することで、多様な表現方法があることを知り、美術に対する理解を深める。 ☐ これからの美術との関わりを考え「美術とは何か」について 1 年間の学びとともに振り返る。	様々な創作活動をおこない、単元を通じて 3 つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 書道 I

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
書道 I	1 年	2	書 I（光村図書）	なし

科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 （２）書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 （３）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
学習活動	・「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻」の４つの分野を幅広く学びます。 ①臨書 「臨書」とは、すぐれた古典を手本にして書き、その技法を学ぶことです。臨書を通して、用筆・運筆、字形や作品全体の構成など、書の基礎的な知識と、幅広い表現技法を身に付けます。 <u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u> ②創作 臨書で身に付けた力を活かして創作活動に取り組みます。 <u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u> ③鑑賞 作品を「書く」ことだけでなく、「みる」ことも大切です。さまざまな書作品の鑑賞を通して、その作品のよさや美しさについて考え、味わい、自分の表現に活かします。 <u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u>		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 ・書の表現の方法や形式、多様性などについて、書の幅広い活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するために必要な基礎的な技能を身に付けている。	思考・判断・表現 ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に学習に取り組む態度 ・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	■ 書写から書道へ ■ 仮名の書 ・単体、連綿、変体仮名 ・蓬萊切 ・高野切第三種 ・仮名創作 ■ 篆刻 ・自分の姓名印をつくる	□「書写」と「書道」の関連と違いについて理解する。 □ 仮名の変遷、種類、歴史的背景を理解する。 □ 単体・連綿の表現方法を身につける。 □ 文字群と余白の配置などによって変わる効果や変体仮名の効果を理解し、表現を構想することができる。 □ 古典臨書で学んだ用筆法や運筆法を活かして漢字創作を行う。 □ 印稿を工夫し、創造的に表現する。 □ 執刀法を身につけ、彫り残しなく最後まで仕上げるができる。	単元ごとに「学習活動」の①②③をそれぞれ行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
後 期	■ 漢字の書（楷書） さまざまな楷書作品の臨書と鑑賞 ・孔子廟堂碑 ・九成宮醴泉銘 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 ・牛橛造像記 ・楷書創作 ■ 漢字の書（行書、草書、隸書） ・蘭亭序（条幅作品の制作） ・風信帖 ・真草千字文 ・曹全碑 ■ 漢字仮名交じりの書 ・自分で選んだ言葉を書く ・完成作品の鑑賞会 ■ 生活の中の書	□ 各古典の特徴を理解し、用筆法を習得する。 □ 書道史をはじめとする理論を学び、古典作品の背景を理解する。 □ 字典の使い方と書体の判別ができるようになる。 □ 古典臨書で学んだ用筆法や運筆法を活かして漢字創作を行う。 □ 蘭亭序及び、王羲之について学び、作品にまつわるエピソードや古典の概要を理解する。 □ 行書、草書、隸書体の特徴を理解し、基礎的な表現ができる。 □ 古典を応用した書の幅広い表現方法を理解する。 □ 運筆・用筆の違いによる変化を理解し、作品へ生かすことができる。 □ 文字と余白の関係を理解し、全体構成を工夫することができる。 □ 制作の意図や表現の工夫点、他の生徒の作品を鑑賞し、自分の言葉で表現することができる。 □ 冠婚葬祭の書のマナーを身に付けることができる。	単元ごとに「学習活動」の①②③をそれぞれ行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語コミュニケーション I

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
英語コミュニケーション I (英語 I A)	1 年	3	CREATIVE English Communication I (第一学習社)	・ CREATIVE English Communication I WORKBOOK(第一学習社) ・Vision Quest 総合英語 3rd Edition(啓林館) ・ウィズダム英和辞典(三省堂)

科目の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、(1)聞くこと(2)読むこと(3)話すこと[やりとり](4)話すこと[発表](5)書くことの5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。		
学習活動	①予習の確認 ②新出単語・フレーズ・文法事項の確認 ③内容の理解 ④音読：さまざまな形式で本文を繰り返し読んでいくことで、英語を身体や頭の中に取り入れ(input)、英語を深く自分の中に定着させる(intake)。目から情報を入手し、自分の声を耳で聞くだけでなく、口から発音したり、時に手で書いてみたりして(output)あらゆる感覚を駆使して、学習した英語を定着させる。 まとめ：習った②③の内容の確認と次の時間への連絡等		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	外国語の4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 外国語の学習を通して、言語の働きや役割などを理解している。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
評価方法	○言語活動に取り組む態度 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題等の提出 ○定期考査、課題テスト	○言語活動に取り組む態度 ○調査・発表態度の観察 ○課題等の提出 ○定期考査、課題テスト	○言語活動に取り組む態度 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題等の提出

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	Lesson 1 Achieving Your Dreams	〈聞くこと〉 ・各単元で取り上げられたトピックスについての会話を聞き、必要な情報を聞き取り、要点を捉えることができるようにする。	単元ごとに、「学習のねらい」にある5つの領域のうち2～3領域をターゲットにして、音読練習や意見交換、プレゼンテーションやパフォーマンステスト等の活動を行ったり、ペアワークやグループワークでのアウトプットを通して、3つの観点について評価をおこなう。
	Lesson 2 What Do You Eat for Lunch?	〈読むこと〉 ・各単元で取り上げられたトピックスについての文章を通して用いられている文構造を理解し、内容的に正確に把握する。また話題についてのさまざまな意見の要点を把握することができるようにする。	
	Lesson 3 The Evolution of the Cellphone	〈話すこと[やり取り]〉 ・各単元で取り上げられたトピックスに関連した感想や経験及び意見を伝えあうやり取りを続けることができるようにする。	
	Lesson 4 A Healthy Planet	〈話すこと[発表]〉 ・各単元で学習した単語や熟語及び文法や語法を日常的な会話に組み込んで使い、幅広い表現を定着させる。	
	Lesson 5 The Adventures of Curious George's Creators i	〈書くこと〉 ・各単元で取り上げられたトピックスに関連した内容の英語を書いて伝えることができるようにする。	
後 期	Lesson 6 Messages about Happiness from Jose Mujica	□主な文法項目 前期 ・ to 不定詞 ・ 動名詞 ・ 現在完了形 ・ 分詞の形容詞用法 ・ 現在完了進行形 ・ 関係代名詞 ・ 助動詞 + be + 過去分詞 ・ It seems that … ・ 知覚動詞・使役動詞 + O + C (= 原形不定詞) ・ 関係代名詞 what	
	Lesson 7 To Stop Plastic Pollution	後期 ・ 過去完了形 ・ 過去完了進行形 ・ 間接疑問文 ・ 形式目的語 it ・ 関係副詞 ・ 仮定法過去 ・ 仮定法過去完了 ・ 分詞構文（現在分詞） ・ 関係詞の非制限用法	
	Lesson 8 Stories to Be Passed On		
	Lesson 9 Will Human Beings and AI Go Hand in Hand		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 論理・表現 I

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
論理・表現 I (英語 I B)	1 年	2	Vision Quest English Logic and Expression I Advanced (啓林館)	・Vision Quest 総合英語 3rd Edition(啓林館) ・ウィズダム英和辞典(三省堂)

科目の目標	「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。		
学習活動	①Logic & Expression を活用して、モデル文をもとに体系的に文法を学び、言語活動の基礎を作る。 ②Example Bank や Function で身に付けた文法や表現を Try it out で活用して、様々な場面・状況において自分自身の考えや気持ちを伝える方法を習得する。 ③日本語から英語への自動化を図る。 ①～③を確実なものにするために次の1)～3)を意識して学習活動を行います。 1)「予習－授業－復習」のサイクルの習慣化 予習で自分の理解できること、できないことを明確にして授業に臨みます。そして授業で内容を十分に理解したうえで、復習で内容を定着させるサイクルを作ります。 2)授業中はしっかり活動する 「英語を使うことができる」とはインプット・インテイク・アウトプットの繰り返しによって、反射的に英語が出てくる状態になっていることをいいます。授業では常にクイックレスポンスを意識して内容を取り入れ(インプット)、繰り返し音読をし、暗唱できる英文を増やし、英語を深く自分の中に定着させます(インテイク)。そしてペアワークやグループワークで実際に使う経験を重ねていきます。 3)スポーツと同じように体を使って英語を学ぶ 目(読む)耳(聞く)口(話す)手(書く、ジェスチャーをする)をできるだけ複数同時に使って英語の学習に取り組みます。身体感覚を駆使して学習した英語は自分の中に定着していきます。		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識があり、それを実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。	思考・判断・表現 外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。	主体的に学習に取り組む態度 外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査、パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノート・プリントの点検 ○課題の点検 ○小テスト ○パフォーマンステスト

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい (各課で以下の項目を学習)	学習活動
前 期	■Lesson 1 Topic: 紹介 Function: 応答する／理由を述べる ■Lesson 2 Topic: 学校生活 Function: 賛成・反対する／聞き直す ■Lesson 3 Topic: 旅行・観光 Function: 激励する・励ます／計画する・予定する ■Lesson 4 Topic: 趣味・関心 Function: 経験を尋ねる／初めての経験を述べる ■Lesson 5 Topic: 将来・進路 Function: 許可を求める・依頼する／義務・必要を表す／回想する・自省する ■Lesson 6 Topic: 日常生活 Function: 原因・影響を表す／喜び・驚きを表す	□各課で学習する文法や表現を使って、文章を書くことができるようにする。 □各課で学習する文法や表現を理解し、話したり聞いたりすることができるようにする。 □与えられた日本語を、学んだ表現を含む英語の文で書く／話すことができるようにする。 □前課で学んだ表現を、文脈の中で用いることができるようにする。 □自分の考えや経験を、学んだ表現を用いてまとめた英語で表現することができるようにする。 □与えられた題材を通じて、いろいろな表現についての意味・用法を理解し、それらを場面に応じて適切に使うことができるようにする。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③を音読練習やペアワークを通しておこない、英語で表現する活動を通じて、3つの観点について評価をおこなう。
後 期	■Lesson 7 Topic: 交流・交際 Function: 感謝する／謝罪する／弁解する ■Lesson 8 Topic: スポーツ・健康 Function: 誘う・申し出る／推薦する ■Lesson 9 Topic: メディア・コミュニケーション Function: 描写する／判断の根拠を述べる ■Lesson 10 Topic: 文化・異文化理解 Function: 定義する／言い換える／経緯を説明する ■Lesson 11 Topic: 国際問題 Function: 提案する／称賛する ■Lesson 12 Topic: 社会問題 Function: 助言を求める・助言する／願望を表す		

指導と評価の年間計画 GLOBAL ENGLISH I

科目	学年	単位数	教科書	副教材
GLOBAL ENGLISH I (GE I)	1年	1		・Pair&Share 1 (いっすな書店) ・CREATIVE English Communication I (第一学習社) ・Vision Quest English Expression I Advanced (啓林館) ・ウィズダム英和辞典(三省堂)

科目の目標	情報を伝えたり、意見交換をしたりするための基本となる知識を身につけ、自分の意見や考えをまとまりのある英語でアウトプットしたりすることで、スピーキングを中心とした5領域にわたる英語運用能力の基礎作りをする。		
学習活動	■サマライジング [Summarizing] 日常生活の身近な話題や既習の英文の内容について、聞いたり読んだりした概要をまとめる活動 ■インタラクション [Interaction] 日常生活の身近な話題について、ペアで意見交換する活動 既習の英文の内容についてグループで意見交換する活動 ■リプロダクション [Reproduction] 既習の英文のトピックについて、キーワードなどを活用しながらストーリーを再現する活動 ■オンライン英会話 スカイプを利用したネイティブスピーカーとのマンツーマンの英会話レッスン		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	相手の言ったことや質問に、英語で的確かつ簡潔に回答したり、日常的な話題について、英語で情報や考えなどを相手に伝えることができる。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、コミュニケーションを図ろうと努力する。ペアワーク・グループワークなどでの活動を通じて、英語で答えようとする姿勢がある。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○定期考査、パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○定期考査、パフォーマンステスト

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい (各課で以下の項目を学習)	学習活動
前 期	ターム① : Speaking 中心の活動 【Pair&Share 1】 ・Lesson 1 Morning ・Lesson 2 Breakfast ・Lesson 3 Going to School ・Lesson 4 Waiting for the Train ・Lesson 5 In the Classroom ・Lesson 6 P.E. Class ・Lesson 7 Lunch Time	■ Speaking 中心の活動 ・Interaction ☐ 起床から就寝までの1日や既習の英文の内容について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方を習得し、それらを用いて情報や考え、気持ちなどを即興で話して伝え合うことができる。 ☐ 英語の質問に対して反射的に答える習慣や的確かつ簡潔に答える力を身につけ、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話すことができる。	各定期考査間の区切りを「ターム」とし、各ターム毎にスピーキング中心とリスニング中心の活動を交互に行う。スピーキング中心の活動はALTとのチーム・ティーチングとする。 ターム① : Speaking ・Interaction ・オンライン英会話
	ターム② : Listening 中心の活動 【CREATIVE English Communication I (Activity Plus)】 ・Website ・Leaflet ・Presentation ・Poster ・Interview	・Summarizing ☐ 既習の英文を読んで、その内容を要約し、発表することができる。 ・Reproduction ☐ 既習の英文のトピックについて、キーとなる語句や文等を習得し、それらを活用しながらストーリーを再現することができる。	ターム② : Listening ・Summarizing ・定期考査
	ターム③ : Speaking 中心の活動 【Pair&Share 1】 ・Lesson 8 Health Check ・Lesson 9 Word Quiz ・Lesson 10 Art Class ・Lesson 11 Cleaning Time ・Lesson 12 After School ・Lesson 13 Soccer Club ・Lesson 14 On the Way Home	☐ 再現した内容について自分の意見を相手に伝え、英語で意見交換をすることができる。 ・オンライン英会話 ☐ 自分の英語運用能力を振り返り、改善し、次につなげることができる。	ターム③ : Speaking ・Interaction ・パフォーマンステスト ・オンライン英会話
後 期	ターム④ : Listening 中心の活動 【CREATIVE English Communication I (Activity Plus)】 ・Report ・Website ・Discussion ・Notice	■ Listening 中心の活動 ・Summarizing ☐ 日常生活の身近な話題について、必要な情報を聞き取り、要点を把握することができる。 ☐ 日常生活の身近な話題について、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要をまとめることができる。	ターム④ : Listening ・Summarizing ・定期考査
	ターム⑤ : Speaking 中心の活動 【Pair&Share 1】 ・Lesson 15 Getting Ready for Dinner ・Lesson 16 Cleaning Up ・Lesson 17 Watching TV ・Lesson 18 Studying ・Lesson 19 Bath Time ・Lesson 20 Bedtime	■ 共通 ☐ ペア・グループワークにおいて、英語で積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を持つことができる。 ☐ 教材の内容と文化的・習慣的背景を理解することができる。 ☐ 学習する語句や表現を理解し、口頭練習を繰り返し定着させることができる。 ☐ 自分の考えや経験を、学んだ表現を用いてまとめた英語で表現することができる。	ターム⑤ : Speaking ・Interaction ・Summarizing ・Presentation ・オンライン英会話

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 情報 I

科 目	学 年	単位数	教 科 書	副 教 材
情報 I	1 年	2	高等学校 情報 I（数研出版）	情報 I サポートノート（数研出版）、Life is Tech! Lesson

科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎基本を学ぶ活動と、実習や問題演習をして原理の理解を深める活動とをします。教養力・思考力 ②授業で指定されたワークや教科書の練習問題、編末問題などは、授業を受けただけで取り組み復習をします。また、小テストなどを通じて振り返り学習を行い、基礎基本を確実に身につける取り組みを確実にこなして下さい。思考力・省察力 ③実習の一部を家庭学習で取り組んでもらう場合があります。そのため、授業ではしっかり聞くところ、友人と相談しながら進めるところ、自ら主体的に取り組むところを切り替えて、より良い学びに繋がる努力をしましょう。表現力・協働力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身につけているか。	思考・判断・表現 様々な事象を情報とその結び付きの観点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につけているか。	主体的に学習に取り組む態度 情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に参画し、その発展に寄与しようとする態度を身につけているか。
評価方法	○授業状況の観察 ○授業プリント ○実習への取り組み ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○授業プリント ○実習への取り組み ○パフォーマンステスト	○授業状況の観察 ○授業プリント ○実習への取り組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	1. 情報社会の問題解決 ・情報とメディア ・情報社会における方とセキュリティ ・情報技術が社会に及ぼす影響 2. コミュニケーションと情報デザイン ・情報のデジタル表現 ・コミュニケーション手段の発展と特徴 ・情報デザイン ・プレゼンテーション	・情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見、解決する方法を考える。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについてその意義について理解し、その背景を科学的に捉え、考察する。 ・情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解し、適切かつ効果的な利用と、望ましい情報社会の構築について考察する。 ・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解し、選択する。 ・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解する。 ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付け表現し、評価し改善する。	单元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、单元を通じて3つの観点について評価を行う。
後 期	3. コンピュータとプログラミング ・コンピュータのしくみ ・プログラミング ・モデル化とシミュレーション 4. 情報通信ネットワークとデータの活用 ・ネットワークの仕組み ・データベース ・データの分析	・コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界について理解する。 ・目的に応じたアルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し表現のための技能を身に付け、その過程を評価し改善する。 ・社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解し、目的に応じて問題の適切な解決方法を考える。 ・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解し、目的や状況に応じて情報セキュリティを確保する方法について考える。 ・データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解し、効果的な活用について考える。 ・データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付け、結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善する。	单元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、单元を通じて3つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。